



01 新地方公会計制度に基づく令和4年度の財務書類を公表します

本市の財政状況について、1年間の現金収支に年度末の資産や負債の状況などを加えて、企業の決算に準じた形で公表しています。総務省が示す「統一的な基準」で作成した、普通会計の財務書類4表を用いて説明します。

▶ 財政課 ☎27-8601

貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

表の左側(資産の部)には本市が所有する資産の種類と金額を、右側(負債の部・純資産の部)は、その資産を取得したときの財源の出どころを示しています。

<p>■ 資産の部 1,356 億円</p> <p>固定資産 道路・施設など 1,120 億円</p> <p>投資その他資産 基金・出資金など 144 億円</p> <p>流動資産 現金・預金など 92 億円</p>	<p>■ 負債の部 市債など将来世代の負担額 279 億円</p>	<p>■ 純資産の部 市税など今までの世代の負担額 1,077 億円</p>
---	---	--

行政コスト計算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

行政サービスの提供にかかった消費的な支出の内訳を示しています。

① 経常費用	296 億円	
内訳	業務費用 (人件費・消耗品費など)	191 億円
	移転費用 (社会保障費・補助金など)	105 億円
② 経常収益 (使用料・分担金など)	14 億円	
③ 純経常行政コスト (①-②)	282 億円	
④ 臨時損失	1 億円	
⑤ 臨時利益	0 億円	
⑥ 純行政コスト (③+④-⑤)	283 億円	

純資産変動計算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

貸借対照表の「純資産の部」の1年間の変動を示しています。

⑦ 令和3年度末 純資産残高	1,074 億円	
⑧ 1年間の変動	3 億円	
内訳	⑨ 純行政コスト	△ 283 億円
	税金・国庫補助金など	279 億円
	資産評価差額など	7 億円
⑩ 令和4年度末 純資産残高 (⑦+⑧)	1,077 億円	

資金収支計算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

現金の流れを示し、どのような活動に資金を使用したかを表しています。

⑪ 令和3年度末 資金残高	12 億円	
⑫ 1年間の変動	4 億円	
内訳	業務活動収支 (人件費・物件費・市税など)	48 億円
	投資活動収支 (建設費・基金繰入金など)	△ 35 億円
	財務活動収支 (償還金・借入金など)	△ 9 億円
⑬ 歳計外現金増減	0 億円	
⑭ 令和4年度末 資金残高 (⑪+⑫+⑬)	16 億円	

分析

財務書類から分かること (前年度比)

- ① 純資産比率 79.4% (+0.6%)
総資産のうち、負債を除いた純資産の割合です。負債額の減少などにより、前年度よりも増加しました。
- ② 1人当たり市債残高 34万2千円 (△0.7万円)
新規の借り入れに比べ償還した金額が大きいことから、市債残高が前年度よりも減少しました。